

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (④困難を抱える親子を対象とした自然体験活動推進事業)

里親家庭親子の自然体験活動推進事業

大阪府

【事業のポイント】

大阪府が設置する自然体験活動施設である大阪府立少年自然の家(以下、「少年自然の家」といいます。)を中心に里親家庭親子とその関係者とネットワークを築き、相互の専門スキルを活かした自然体験活動推進プログラムを開発し、モデル実施を行いました。プログラムは連続講座とすることにより、子どもの自然体験活動レベルを充実し、自己肯定感の向上を図ることを目指しました。



ツリーイング体験



鶏の丸焼きにチャレンジ

1. 企画

(1) 事業実施の背景

大阪府内には、様々な事情により自宅で生活できない子どもが約1,700人(大阪市・堺市除く)います。生い立ちにおいて様々な困難を抱えていることから、自己肯定感が十分に育まれていない可能性があります。また、自宅で生活できない子どもの9割以上が児童養護施設や乳児院等の施設で生活しており、里親家庭で生活している子どもは、9.7%に過ぎず、全国に比べても普及が遅れているのが現状です。今後、府内で里親制度を更に普及していくためには、同じ立場にある子どもや里親同士が交流する機会を設けるなど、里親家庭親子への支援が必要と考えこの本事業を実施しました。

(2) わらい

自然体験活動に関する支援スキルを有する少年自然の家を活用し、
① 子どもの自己肯定感の更なる向上を図り、社会を生き抜く力を養成するため、自然体験活動を推進する。
② 里親家庭の親子同士の交流の促進により、里親とその子どもの精神面をサポートし、里親制度の推進に寄与する。
ことを目的に、少年自然の家、大阪里親連合会、大阪府子ども家庭センター等と地域プラットフォームを形成し、自然体験活動プログラムを開発し、モデル実施をすることにより効果の検証を行います。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成

- ①大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課
- ②大阪府立少年自然の家
- ③大阪府福祉部子ども室家庭支援課
- ④大阪府子ども家庭センター
- ⑤大阪里親連合会
- ⑥活動リーダー
- ⑦活動支援スタッフ

(2) 具体的な取組の概要

①プラットフォーム形成による里親家庭親子に対する自然体験活動推進プログラムの開発等

里親家庭親子に対する自然体験活動推進プログラムの開発やモデル実施を行うにあたり、関係者で協議の場を持ち、必要事項、課題等について情報共有や検討を行いました。

②「自然を感じるステップアッププログラム」の開発及びモデル実施

①の検討に基づき、大阪府立少年自然の家のスタッフの助言の下に「自然を感じるステップアッププログラム」を開発しました。このプログラムは、里親家庭親子の交流が図られるよう3回の連続の自然体験講座で構成し、自然観察、ツリーイング、焚き火、野外炊飯を組み入れ、活動レベルも徐々に上げていくこととしました。

開発したプログラムに基づき、里親家庭親子を対象に参加者を募集して、モデル事業を実施し、プログラムの各回の実施後に活動支援スタッフの振り返りを行い、メニューの構成や時間配分について見直しを行いました。また、子どもによる活動成果の発表や参加者へのアンケートを実施し、プログラムの効果検証に役立てました。

③実施事業の成果の普及

大阪府青年の家等連絡協議会において、本事業での実践・成果を報告するとともに、大阪府の里親家庭支援策についての普及・啓発を行いました。

(3)実績スケジュール	
月 日	内 容
平成29年7月5日	プログラム検討会議の開催
平成29年7月～8月	大阪里親連合会及び子ども家庭センターを通じて事業告知
平成29年9月23日	第1回自然を感じるステップアッププログラムの実施 プログラムの振返りの実施
平成29年10月27日	プログラム検討会議(プログラムの修正)の開催
平成29年11月25日	第2回自然を感じるステップアッププログラムの実施 参加者アンケートの実施 プログラムの振返りの実施
平成30年1月27日	第3回自然を感じるステップアッププログラムの実施 プログラムの振返りの実施
平成30年1月29日	大阪府青年の家等連絡協議会にて事例報告
平成30年2月～3月	参加者アンケートの実施

3. 成果と課題

(1) 成果

里親家庭親子の慈善活動体験の推進及び親子及び参加者間の交流を図ることを目的とした、自然観察、ツリーイング、焚き火、野外炊飯を組み入れた連続の自然体験講座を開発し、参加者アンケートや支援者の振返りを通じて、プログラムの検証を行いました。

◆自然体験活動推進プログラムの開発

別紙1のとおり

◆プログラムを通じての子どもの変化

複数回のプログラムを同じスタッフ、参加者で行うことにより、回を追うごとに他者への思いやりを素直に表現する子どもが多くなりました。また、子どもにとって難しいと思っていたプログラム(ツリーイング)ができたことにより、その後のプログラムについても、粘り強くチャレンジする姿が見受けられました。

(プログラム中の里親、スタッフの振りかえりからの感想)

- ・第1回の活動では、関心のない個別メニューの際には参加せずに自由に遊んでいる子どももいましたが、第2回の活動以降、関心のない個別メニュー、最初うまくできなかった個別メニューについても、自分なりの楽しさを見つけ、何度も挑戦するなど、子ども達に粘りができました。
- ・普段調理をしない子どもが調理に積極的に参加していました。また、苦手とする食材であっても、野外炊飯では食べている子どもがいました。
- ・大勢の子どもの食事の介助に追われている里親を気遣って、乳幼児をあやしたり、荷物を持ってあげる子どもがいました。第3回では特にその様子が顕著でした。
- ・回を重ねるごとに、自分からほかの参加者やスタッフに話しかける子どもが増えました。

◆プログラムの評価

参加者アンケートを通じたプログラムの評価は以下のとおりです。

- ・プログラム全体については、「とても満足」「やや満足」が大半でした。
- ・開催時間(又は期間)については、日帰りの活動を支持する回答が多数でした。
- ・保護者からは、自然観察、自然を使った工作、ツリーイング、鶏の丸焼きなど、野外ならではの自然体験が高評価でした。子どもの感想ではツリーイングが好評でした。
- ・里親同士の意見交換会については、今回のプログラムには、組み込みみませんでしたが、食事の時間やフィールドワークの中で、自然な交流があり、アンケートにも保護者同士、子ども同士の交流ができたとの評価がありました。一方、もっとたくさんの家庭と交流したい、参加者を里親家庭親子に限定する必要はないなどの意見がありました。

(2) 課題

プログラム内容については、概ね好評でしたが、

- ・ 原則3回参加となると、予定がつきにくい。
- ・ 乳幼児を預かっている場合は、冬場は子どもの体調管理が難しい。
- ・ 週末里親の場合、子どもと別々に行動している日がある。
- ・ 子どもが自然体験活動に興味がないため活動イメージがわきにくく、参加を促しても関心を示さない。

等の意見が挙げられ、開催時期、参加の形態については、配慮が必要であるとともに、子どもにわかりやすい活動内容の紹介が必要であることがアンケート等により判明しました。

また、里親家庭親子が参加する事業の特徴として、一人の保護者が大勢の子どもを預かっている、子どもの年齢に大きな幅があり(乳幼児～14歳まで)自然活動体験の経験がほとんどない子どももいることから、

- ・ 時間的に余裕のあるプログラム構成
- ・ 育児経験のあるスタッフの確保
- ・ よりきめ細かな活動支援

を考慮することが必要であると思われる。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

実践事例の成果と課題についてプラットフォームメンバーと共有し、子どもたちの自然体験活動推進を図っていきたいと考えています。

今回のモデルプログラムでは、参加対象者を里親家庭親子に限定しましたが、参加者からは、里親家庭親子に限定する必要はないとの意見を多くいただきました。こうした意見も参考にしながら、モデルプログラムをもとに、子どものチャレンジ精神の向上や、他人との関わり方の学び、自己肯定につながる事業内容を考察し、課題を抱える子どもや、家庭環境のために自然体験活動が少ない子どもを対象とした取組みを大阪府立少年自然の家において引き続き検討していきたいと考えています。

また、自然体験活動に関する事業について、今回のプラットフォームメンバーを通じて情報提供するなどにより、里親家庭親子が様々な家庭と交流し、体験活動に関わるきっかけをつくっていきたいと考えています。

5. 団体プロフィール

大阪府教育庁
市町村教育室地域教育振興課
電話 06-6941-0351
FAX 06-6944-6902
Eメール shichosonkyoiku-g03
@sbox.pref.osaka.lg.jp



<http://shizen.osaka-yha.or.jp/>

	時間	活動	場所	内容
第1回 (H29.9.23)	11:00	はじまりの会	いろりの館	あいさつ、一日の流れの説明
	11:30	なかよしクッキング	第1炊飯場 フレンドシップスウェア	◆野外炊飯(カレー作り) 食器・材料の準備～調理～配膳～食事～片付け 槇集め～火起こし～火の維持
	14:00	なかよしプログラム	第1炊飯場 大ファイヤー場周辺	◆自然観察プログラム 講師:中川貴之(環境学習支援倶楽部) 【ものの形】 星形や円形など様々な形のネックレス「形ネックレス」を作り、自然の中を歩き、同じ形のものを探す。 グループごとあるいは親子で行動し、見つけたもの(例えば花や葉っぱ)の形が「形ネックレス」にある「形」とあっているかどうかをみんなで確認しあう。 【あの木の大きさは?】 腕、足、歩幅、両手を広げた長さなど体のいろいろな部分の長さをメジャーで計り、野外に出て、落ち葉、枝や木の太さ、木と木の間隔、枝ぶりの広がりなどをみんなで測る。 【木に触れよう】 紙袋に枝、石、落ち葉、木の実など、形のあるものを入れ、参加者は袋に手を入れ、触った感じでどんなものが入っているかを当てる。 【音合わせ】 中身の見えないケースに枝、石、木の実、などをいれておき、参加者は耳元でこのケースを振って音を聞く。耳で聞いた音を頼りに同じものを当てていく。
	16:00	またねの会	いろりの館	活動のふりかえり
	17:00	解散		

第2回 (H29.11.25)	11:00	はじまりの会	いろりの館	あいさつ、一日の流れの説明
	11:15	なかよしクッキング	第1炊飯場 フレンドシップスウェア	◆野外炊飯(豚汁作り) 食器・材料の準備～調理～配膳～食事～片付け 槇集め～火起こし～火の維持
	12:30	ツリーイング	ツリーイング広場	◆ツリーイング体験 準備体操 会場への移動(軽易な森の散策) ツリーイング指導 ツリーイングに参加できない子どもは、森の中でのハンモック体験
	16:30	またねの会	いろりの館	活動のふりかえり、アンケートの記入
	17:00	解散		

第3回 (H30.1.27)	11:00	はじまりの会	いろりの館	あいさつ、一日の流れの説明
	11:15	たき火で なかよしクッキング	第1炊飯場 フレンドシップスウェア	◆野外炊飯(鶏の丸焼き) 食器・材料の準備～調理～配膳～食事～片付け ※子ども達に鶏の体の構造について解説したうえで命をいただくことについて説明。 タッチオープンで丸焼きにした後は、解体を体験。 ◆焚き火 槇集め～火起こし～火の維持 いろんな食材を焚き火で焼く。
	14:00	なかよしプログラム	第1炊飯場	◆自然を使った運動体験 スラックライン、竹馬、ハンモック
	16:00	またねの会	いろりの館	全員がひとりづつ一日の活動の感想を発表
	17:00	解散		

